

クサムスビ

EXTRA
ISSUE



作家 **アート** **ことば**

アートで知る
わたしのまち



お寺でアート
オテラート

泉鏡花「化鳥」より
9月3日ー11日

九月三日から十一日までの九日間の日程でオテラート金澤2016が開催されました。小立野地区、寺町地区、浅ノ川地区の十一カ寺を会場に作家や美大生等、約六〇名が参加し、現代アートから伝統工芸まで多種多様な作品が展示されました。また、約四〇種類のワークショップなども催され、多くの方がアートやお寺に親しまれました。

浄 光寺では昨年に引き続き「アートで知るわたしのまち」と題し、沈金師の芝山佳範さん（森山町小出身）と森山町小学校の三年生約五〇名と一緒に作品を作りました。第七回目を迎える今年のオテラートのテーマは「怪なること」。当寺では、金沢を代表する文豪、泉鏡花原作の「化鳥」を絵本化した「絵本 化鳥」を題材にお面を制作。そのお面を展示するだけでなく、実際に着けて、小説を暗唱しながら提灯を持って夜の大眾免（森山地区）を練り歩きました。

また、京都より絵本のイラストを担当されたイラストレーターで僧侶の中川学さんと泉鏡花記念館学芸員

の穴倉玉日さんをお迎えしてのトークイベントも開催されました。小説がどのようにして絵本化されたのか苦勞話やこだわり等、お二人の「化鳥」へ思い入れが伝わってくる貴重なお話をお聞きすることができました。合わせて、泉鏡花記念館と中川さんのご厚意により絵本の原画パネルや映像作品等も展示されました。

その他、参加作家五名の作品の展示や田屋邦夫さん（森山町小出身）の能楽と荒木明日子さん（森山町小出身）による「怪しのハナシ」、来年建て替えの為取り壊しになる森山町小学校の校舎でのお化け屋敷、宇野満男さん（森山町小出身）の紙芝居、水引やラテアートのワークショップ、松永さんのかき氷など多数の催しが開催され、延べ三千三百人もの方が参加してくださいって大変な賑わいとなりました。その様子は新聞各紙やテレビ等でも複数回にわたり取り上げられ、反響の大きさに驚かされました。今回も地域に伝わる小説や伝説を題材にアートを通して歴史や文化を再発見させていただく忘れ難いご縁となりました。

「妖怪行列」

8月26日午後7時30分

雨の中、三年生約五〇名が自ら制作した色とりどりのお面を着けて、妖怪になりきって夜道を練り歩きました。普段あまり歩くことのない大衆免の真つ暗な小路に子供たちが暗唱する声が響き渡りました。「絵本化鳥」に描かれている百鬼夜行さながらの怪しく雰囲気ある行列となりました。当日の様子はオテラート期間中に本堂でお面の展示と共に、常時上映されました。



妖怪行列の様子



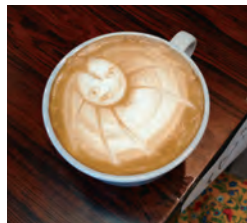
本堂に吊るされたお面



「水引ワークショップ」

9月3日午後2時

講師に水引art波華の井波佳奈さんをお招きして水引制作体験が開かれました。小学生からご年配の方まで幅広い年代の方々が多数参加してくださいました。各々好きな色の水引を選んで、ストラップやおしり、指輪を制作。皆さん真剣な眼差しで熱心取り組まれている姿が印象的でした。井波さんには時間を延長して丁寧にご指導いただきました。



「お寺deラテアート」

9月4日午後2時

昨年大好評だったハンドドリップ講座、今年も講師にアリーカフェの有延宏之さんをお迎えしてラテアート講座を開催しました。身近なようで身近ではないラテアート、参加されたほとんどの方は初体験。はじめは戸惑いながらも、思い思いの形をコーヒーの上に描いて楽しめました。とても貴重な体験となったのではないのでしょうか。

「怪しのハナシと能楽」

9月10日午後5時30分

まずは、宝生流能楽師の田屋邦夫さんによる「竹生島」の披露。厳粛な雰囲気のもと会が始まりました。続いては荒木明日子さんの語りの時間。地元で伝わる「飴買い幽霊」をはじめ「耳なし芳一」、「踊る骸骨」などたっぷりとお話しくださいました。来場者の約七十名は蝋燭の灯りが揺らめく暗い本堂に響く荒木さんの金沢弁に聞き入っていました。

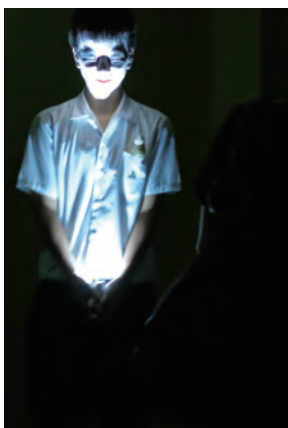


お化け屋敷

「学校の怪談」

9月10日午後6時

近々建て替えるの為に取り壊しとなる森山町小学校の校舎の一階と二階を会場にお化け屋敷を企画。地域の方や学生さんなど約五〇名にお手伝いいただきました。



真っ暗な金沢最古の校舎を歩く、それだけでも恐ろしいはずですが、学校に伝わる怪談や飴買い幽霊を題材に沢山の仕掛けを用意。その恐怖に校舎中に叫び声が響き渡り、泣き出す子も。でも最後に無事にじろ飴をゲットして大満足の皆さんでした。報道等で初めて校舎が取り壊しになることを知り、校舎を懐かしんで訪れた方も多く、約八〇〇名もの入場者を動員し大変な人出となりました。

お化け屋敷の後は、会場を浄光寺に移して宇野満男さんオリジナルの動く紙芝居「飴買い幽霊」も楽しんでいただきました。



トークイベント

「泉鏡花の世界」

「化鳥」から『絵本化鳥』へ

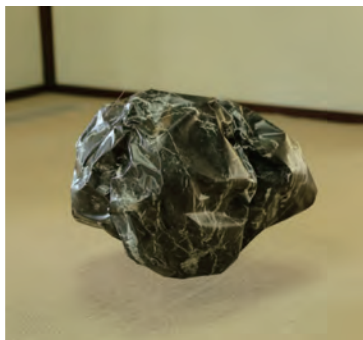
9月11日午後4時

今年のオテラートの締めくくりは、イラストレーターで僧侶の中川学さんと泉鏡花記念館学芸員の穴倉玉日さんによるトークイベント。鏡花をこよなく愛するお二人の深いお話しに集まった鏡花と中川さんのファン約五〇人は熱心に耳を傾けていました。とても贅沢で貴重な時間を皆さんと共有することができました。





「写(真)仏」 松村れん



「とどまらない石」 野村由香



「カタチナイモノ」 井波佳奈



「手」 芝山佳範



「能」 下橋晶



「梵字」 下橋晶



「松永さんのかき氷」

惜しまれつつも八〇年の歴史に幕を閉じた名店の手作りシロップのかき氷を今年も味わうことができました。昨年に引き続きオテラートの四日間だけの限定出店。懐かしの味を求めて連日行列ができました。

花まつり

5月14日(土)
午前10時～午後5時

金沢教区第八組花まつりが浄光寺を会場に三年ぶりに開催されました。天候にも恵まれ、五百人を越える方が足を運ばれました。

お釈迦様の誕生をお祝いする花まつりに合わせて帰敬式(おかみそり)が執行されました。平野喜之氏(かほく市・浄専寺住職)のご法話の後、二〇名が受式され、仏弟子として新たな一歩を踏み出



されました。

メインゲストにテレビやラフォオルジュルネ等でお馴染みのピアノリスト、青島広志さんとテノール歌手の小野勉さんをお招きして「おじゃべりコンサート、花に寄せて」が行われました。お釈迦様の誕生をお祝いの歌から始まり、花に纏わる歌の数々、そして青島さんの楽しいおしゃべり



のあつという間の一時間でした。二回の公演があり計二五〇名が青島さんの演奏と小野さんの歌声に酔いました。

「こびと探し」は子供たちに大人気!境内に隠された二十五種類のこびとを探しながら花まつりクイズを



楽しみました。一日中、子供たちの声で賑やかな境内となりました。

松永さんのかき氷、みつやさんの釜炊おにぎり、旅カフェ、蓮如だんご、物販などの出店も充実。こだわりの味に舌鼓を打ちました。

その他、近隣寺院を会場に「ヒゲキタさんの手作りプラネタリウムとどんぐりトトロ作りや後藤サヤカ監督作品映画「Buddhist 今を生きよ

うとする人たち」が上映されました。



小学生×玄川志らら×浄光寺

第四回 ちやんぷい

五月六日(金)
七日(土)

法話 浄光寺住職
落語 玄川志らら

五 月六日～八日、三日間の日程で十一カ寺を会場に「第四回 おてらくご」が開催されました。すっかりお馴染みとなった、立川流一門の立川志ららさんと笑福亭鶴瓶さんの弟子で今回初登場の笑福亭瓶二さんをお招きしました。

落語を縁に気軽に仏法に触れていただければと開催してきた「おてらくご」ですが、今年もさらに参加寺院が増え、より多くの方に参加いただくことができました。昨年同様一般向けの公演の他、森山町小・馬場小・浅ノ川小の三校も課外授業として参加しました。

六 日、午後二時、当寺では一昨年、昨年に引き続き、森山町小学校の四年生と五年生が五・六時間目の授業時間を利用してお寺に足を運んでくださいました。



「正信偈」の唱和と法話と落語の順に進行。住職による法話では仏典童話ジャータカから「いのちの秤」のお話を聞いていただきました。一人一人が代わりのない尊いいのちを生きていることを一緒に学びました。

続いては落語の時間。昨年の吉田亮太君に続いてなんと今年も五年生の坂井優太君が志ららさんの前座を担当！高座の上で得意の「力士の春」を披露してくれました。その小学生離れた落語でみんな大爆笑。坂井君の将来がとて楽しみですね。

次はいよいよ志ららさんが登場。古典落語の「初天神」と「うなぎ屋」



を披露してくださいました。今回初めて落語に触れた子供も多くいましたが、すっかり落語の世界に魅了されたようです。最後はいつもの落語家さんへのQ&Aコーナー。子供らしい素朴な疑問など様々な質問が飛び交いましたが、本気で答えていくうちにいつの間にか子供たちに人生について熱く語ってくださいしていた志ららさんでした。

平成29年回忌表

- 一周忌・・・平成28年(2016年)
 - 三回忌・・・平成27年(2015年)
 - 七回忌・・・平成23年(2011年)
 - 十三回忌・・・平成17年(2005年)
 - 十七回忌・・・平成13年(2001年)
 - 二十三回忌・・・平成7年(1995年)
 - 二十五回忌・・・平成5年(1993年)
 - 二十七回忌・・・平成3年(1991年)
 - 三十三回忌・・・昭和60年(1985年)
 - 三十七回忌・・・平成56年(1981年)
 - 五十回忌・・・昭和43年(1968年)
- ※(～)内の年忌法要を勤める場合もあります。法要のご依頼はお早めに。

きこまっけ

毎月二十八日・午後二時
十二月～二月は冬休み

みんなで『正信偈』のお勤めの練習とお勉強をしています。途中参加、初心者の方も大歓迎です。



七日

七日、午前十時半からは一般の方が対象の時間。今回はじめての午前中の開催となりましたが、約一二〇名の老若男女が足を運んでくださりました。

まずは「正信偈」のお勤め。皆さん本当に大きな声で唱和してくださいました。続いて住職の法話。プロジェクターを使用しながら、水野敬也さんの『それでも僕は夢を見る』を題材に私たちが今かけがえのない一瞬一瞬を頂いていることを忘れながら生きていることをお話ししました。



続いて落語の時間。小学生同様、担当していただいた志ららさんは二回目の登場となります。まずは小噺。軽妙な語りで、あっという間に聴衆を引き込み、本堂は笑い声で溢れました。演目は「替り目」と「壺算」。真打に昇進を果たし、只今絶好調の志ららさん、貫禄の落語をたっぷり披露してくださいました。

今回のおてらくご、有り難いことに落語は勿論の事、法話も楽しみに足を運んでくださった方が着実に増えてきたようです。

年中行事

「除夜の鐘」、「修正会」

大晦日、元旦

近年、悪天候続きの大晦日。今年も雨の除夜の鐘となりました。鐘の響きに自らの在り様を再確認。続いて午前零時より修正会が本堂で勤まり、皆さんと尊前でお念仏と共に新年を迎えることができました。また境内では豚汁や飲み物の接待もあり、身も心も温まりました。



「お太子さん」

三月二十日

鈴木大拙館館長 木村宣彰

今年もご講師として鈴木大拙館館長で大谷大学前学長の木村宣彰先生をお迎えして、聖徳太子御忌が執り行われました。

「正信偈」、「聖徳太子讚奉和讃」に続いて、場所を聖徳太子御木像を安置するお厨子に移して太子縁起が拝読されました。

ご法話では、太子の「十七条憲法」や「縁」、「和」という言葉をキーワードに先生が特に感動されたエピソードの数々を紹介してくださいました。

親鸞聖人がなぜ聖徳太子を大切にされたのか。改めて訪ねる大切なご縁となりました。



「追弔会」

八月十三日

玄性寺住職 靈河英樹

八月十三日、旧盆に合わせて「追弔会」が執り行われました。登高座では、参詣者のご先祖様の法名を一人お一人、住職が読み上げ、亡き人が結んでくださった仏縁に感謝し、亡き人の声に耳を傾けました。

ご法話は、皆さまからの熱いリクエストにお応えしてよしかわじでき靈河秀樹さん（福井県・浄土真宗本願寺派 玄性寺住職）に再度ご出講いただくことになりました。

今回もおなじみの法話ライブ形式で、「真宗宗歌」などの仏教讃歌をはじめ中島みゆきさんの「糸」などを伸びのある歌声とギター演奏で披露してくださいました。そして、それらの曲の歌心を仏法を通して私たちにやさしく語りかけてくださいました。師が届けてくださったお念仏の世界は、亡き人ともう一度出会い直す大切なご縁となりました。



「報恩講」

十月十七日・十八日

西照寺住職 日野賢之

道因寺住職 相馬 豊

おかげさまで皆さまにご協力をいただき、ピカピカになったお荘厳で「ほんごさん」をお迎

えすることができました。

十七日「大連夜」、ご法話には小松市より日野賢之けんし師をお迎えしました。十三年ぶりのご縁となりましたが、実は西照寺さまとは二百年来の遠縁。軽妙な語り口で笑い交えながら蓮如上人の「御文」を中心に話してくださいました。同日、「初夜」は皆で「正信偈」をお勤めした後、ビデオ「仏陀との出会いー王舎城の物語」を上映しました。親鸞聖人はなぜ「仏説観無量寿経」に説かれる「王舎城の悲劇」を大切にされたのか、そのことは私たちにとって何を意味するのか学びました。

十八日「結願日中」、今年も講師に相馬豊師をお迎えしました。杉山平一さんの「生」という詩を中心に人として生まれてきた用事についてお話ししてくださいました。



日野賢之先生



相馬豊先生

一年中行事

- 一月「修正会」元旦（午前0時）
- 三月「お太子さん」彼岸中日（午後一時）
- 七月「孟蘭盆」十三日～十六日
- 八月「追弔会」十三日（午前十時）
- 十月「報恩講」十七日（午後一時半・七時）
十八日（午前十時半）
- 十二月「除夜の鐘」大晦日（午後十一時半）
- ※毎月二十八日「きまひげ」（午後二時）

行事のご案内

「除夜の鐘」

「修正会」

大晦日午後十一時三十分よりみんなで鐘をつきます。引き続き午前零時より本堂で修正会が勤まります。

温かいものをご用意してお待ちしております。新年を浄光寺で迎えましょう！